

## 沖縄二日目

目を覚ますとホテルの部屋から見える街の風景と、海の景色はどんよりとした雲に覆われています。このホテルが沖縄のどのあたりになるのかさえよく分かりませんでした。後で確認すると国頭郡恩納村にあり、ちょうど沖縄本島の真ん中あたりで、西側の海岸近くにある「沖縄かりゆしリゾート・オーシャンスパ」で、ここに連泊します。

### 1 見学よりもお土産を買うパイナップルパーク・森のガラス館

朝は8時40分に出発、きょうは全員が着席できてバスは何事もなくスタートすることが出来ました。それに空の雲もなく青空が広がっていました。初めに向かったのはパイナップルパークで、ここはパイナップルを栽培している農園かと思っていました。でも違っていました、要はパイナップル製品の販売所でした。一応、数種類のパイナップルの苗が植えられていて、パイナップルが沖縄に入ってきた経緯が記されていました。細かなことは書いてないものの、小笠原や台湾から入ってきたもの、石垣島の川平湾に漂着したオランダ船から種子が漂着したものとありました。パイナップルの周りにはブーゲンビリアの花が咲いており、沖縄へ来たことを感じさせます。園内を周遊する



黄色のトレーラーもあり、それなりに広いパイナップル畑があるようです。が、小さなパイナップル畑の横を通って、売店へ行く途中にはパイナップルに関するクイズコーナーがありました。これはなかなか面白いと思い、覗いたクイズは「パイナップルの名前の別名は？」というもの。四択になっており①南国苺②亀檸檬③西瓜蜜④松林檎から選択します。形から案外と②かなと思ったのですが、違っていました。答えは④の松林檎でしたが、でもどの辺りでそんな呼び方をしているのか。

30分ほどで次の場所へ移動します。工程表で次は森のガラス館としてあります、伝統工芸の琉球ガラス工場の見学です。工場と言っても小さなもので、そんなに広さありません。私たちが立ち寄った時には馬を形作る様子を見せてくれました。そしてすぐに隣の売店へ案内されます。やれやれ、ツアー料金がお値打ちになっている分だけお店に行くことになっているわけです。ぐるりと見渡せば、あとは用がありません。妻はいろいろ見ていましたが、私は外に出て周りを眺めていました。ここも30分ほどで次の場所へ移動します。

### 2 海の色が何とも美しい古宇利島

40分ほど走って古宇利島へ向かいます。離島と言えばふつうは船で行くものですが、古宇利島は車でそのまま行けるのが魅力です。本島からまず屋我地島という島へ渡り、そこから標識通りに進めばあっという間に古宇利島へアクセスできます。屋我地島と古宇利島の間にはまっすぐに延びた約2kmの「古宇利大橋」が架かっていて、この景色がとにかく素晴らしい。大絶景と言えるパノラマが広がっています。

バス車内から見ても素晴らしく、海辺でのんびりできたらどんなにいいだろうと思います。この島はアダム&イブのような伝説があって「恋島」と呼ばれ、それが転じて古宇利島になったとも。



古宇利島の美しい海

中でもティーヌ浜にあるハート型の岩は、恋愛成就のパワースポットとしておなじみになっているという。さらに海拔82mの高さにある「古宇利オーシャンタワー」から古宇利大橋や海を望むパノラマは抜群という。でも今回はこのどちらも行きませんでした。その代わりに古宇利大橋に上がるとたくさんの白い家や、オレンジ色の屋根の家がとても鮮やかで、さらに白い漁船も見えました。海はと言えば藍色とエメラルド色・青色の美しいグラデーションがとても印象的です。そんな海を眺めていると飽きることがありません。白い砂浜を歩いて潮風にあたり、とても心が満たされました。海辺ではカヌー教室も開かれていて、学生たちが練習している風景を眺め20分ほどで移動します。

#### ★バス車内での説明

- ・名護湾はとても波が静かです、それは沖合にリーフがあって波が打ち消されるのです。そのため台風の時でも大きな波は来ない。昔はイルカ漁がおこなわれていました
- ・コンビニはたくさんあります、ローソンとファミリーマート。セブンイレブンはないです
- ・名護の反対側が辺野古です。基地反対を主張した前市長は、そのことに気を使いすぎて経済発展に遅れたことで敗れた。新聞などの報道は、基地がない所に新しく辺野古基地を造るかのような報道をしていますが、辺野古に基地は今も存在しているのです
- ・方言については、聞くことはできても話せない世代になってきた。ほんとの方言を聞くには田舎のラジオ番組を聞くのが面白い
- ・名産の黒糖は、多良間島の黒糖が一番。昔は黒糖を溶かしたサーター油を風邪の薬として飲んだ
- ・名護市は日本ハムがキャンプします

## 2 ジンベエザメの雄姿は圧巻

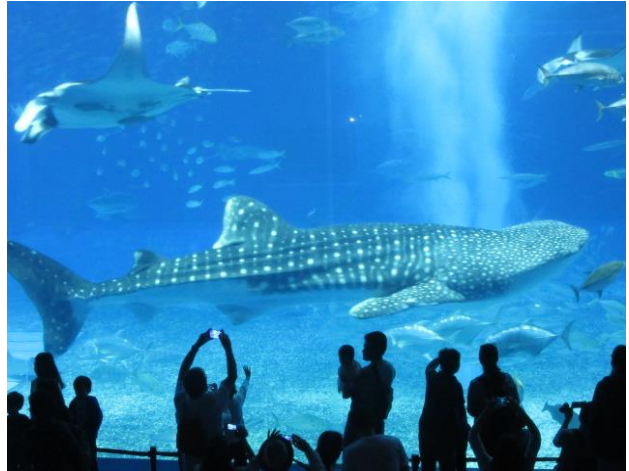
12時10分くらいに海洋博公園に到着です、バスを降りる時にガイドが「バスは49番に駐車していますので49番を忘れないでください」という。降りてみると確かにバスがめっちゃめっちゃ多く駐車している、60台以上のスペースがあるようだがそれでも駐車スペースに入れずに待っているバスがいる。沖縄のすべてのバスがここに集まってくるのではと思うくらいだ。

ここでの目当ては言うまでもなくジンベエザメです。沖縄美ら海水族館で出会える感動の体験です。この水族館は世界一と世界初を誇っています、まず世界一は水槽の厚みが60cm、世界初はジンベエザメの複数飼育に成功したことです。でも、水槽の厚みは最近中東のドバイにこれ以上のものが完成したといいます。特にジンベエ

ザメはその大きさゆえに複数飼育は困難とされてきましたが、沖縄美ら海水族館では世界最大級の水槽により、世界で初めて繁殖を目指した複数飼育を実現しました。いまだ謎が多い生態解明に挑むビッグスケールな試みです。さらに最大級のエイ「ナンヨウマンタ」の飼育と繁殖に世界で初めて成功しました。



公園と海の遠景



ジンベエザメとマンタ

館内に入るとサンゴ、クラゲ、エビ類と、どこの水族館でも見られるような海の生物がたくさん展示されています。これらはあまり興味ないので、どんどん進んでいくとありました。とても広い部屋で階段式になった席が扇状に並んでいます。でもみなさんは水槽のすぐ前まで行き、近くまでくるジンベウザメを待っています。下の方を泳いできたり、上の方を泳いでくるジンベエザメには、小さな魚が親衛隊のようについています。いい写真を撮ろうと狙いを定めてシャッターを押しますが、なかなか難しいです。そのため何枚もここと思うところでシャッターを押しました。

ジンベエザメと主役を争うのがマンタです、その中には腹のほうが黒い珍しいマンタがいます。この両方を一枚に捉えたいのですがなかなか難しく、うまくタイミングが合いません。みなさんカメラを向けていますが、ジンベエザメとマンタを狙っていることでしょう。

水族館を出て次は13時からのおきちゃん劇場「イルカショー」を見て、最後に熱帯ドリームセンターへ立ち寄ることにしました。

### 3 イルカショーと二人だけのランチを優雅に

丁度ショーが始まるころに間に合い、席に腰を落ち着けました。もっとも後ろの席でしたが全体を眺められて良かったです。合図に従いイルカたちが歯を見せて笑う？仕草はとても愛嬌があり、満員のお客さんから拍手です。次から次と泳いだりジャンプしたり、ちゃんと出来るとお魚がもらえます。中でもすごいと思ったのは4mほどの高さにつるしたボールに、2頭が揃ってジャンプするのです。こうした訓練はどのようにしてイルカと意思疎通を図ることができるのか、とても不思議です。同時にきちんと覚えらるイルカの記憶力に感心です。久しぶりにこうしたショーを見ましたが、とても楽しかったです。

この後、熱帯ドリームセンターへ行きますが、その途中でランチにしよう場所を探しながら歩き出しました。かなりの日差しですが海風があり暑さは感じません。そんな時、水辺があってピンク、うす紫、黄色の睡蓮の花が咲いていました。場所を探しながらというのは、ガイドから海洋博公園のレストランはかなり混雑するというので、実はパイナップルパークで近くのコンビニへ行き私の好きな助六を買っておきました。

公園の案内図見たらすぐ近くにレストハウスがあります、トイレマークもついておりここにすることにしました。敷き詰められた芝生の中に建つ小さな建物はガラス張り、中にはテーブルとイスが配置されています。でもお客さんは誰もいません、私たちの貸し切りです。ガラス越しに美しい海を眺めながら食べる、二人だけのランチの味はもちろん雰囲気も、これこそ金婚式の食事を彩る私たちにふさわしい格別なものになりました。



イルカのジャンプ



レストハウスからの眺め

レストハウスからさらに歩き少し疲れましたが、やっと到着した熱帯ドリームセンターは入園料が760円です。でも沖縄美ら海水族館の半券を提示すると半額になります、私はすぐに半券を出したのですが妻はバッグのどこに入れたのか見つかりません。二人一緒ですから一枚の提示でよろしいのではと言うも了承してもらえません。それでもやっと妻も半券が見つかり、380円でOKになりました。ちなみに沖縄美ら海水族館の料金は団体1,480円で、個人なら1,850円になります。

園内はさほど特徴があるわけでもなく、ラン主体の普通の展示でした。ですから特に沖縄の熱帯植物園という感じはしませんでした。帰りは少し疲れたので園内を走る電気遊覧車に乗って水族館前まで戻りました。

### 3 オリオンビール工場の見学と試飲

15時に海洋博公園を出発して16時にオリオンビールに到着しました。ビール工場の見学は興味がありますが何と言っても試飲ができることです。これまで沖縄に到着してから、初日は夜遅かったのでホテルの自販機でオリオンビールを飲みました。二日目からホテルの夕食ではオリオンビールの生をいただきました。沖縄まで来てキリンやアサヒを飲むことはないと思うからです。

オリオンビールは昭和32年に創業しましたが、名前は一般公募で「オリオン」が採用されたそうです。この時の賞金は10,000円だったと言いますから、かなりの金額と言えます。見学は他の団体と一緒に回りました、特別これはということはありませんが、一人が毎日360ml一本を飲むとしたら100年と言ったか10年かかると言うタンクに貯蔵されます。すごい量です、そんなに作っても大丈夫なんですね。そして、お楽しみの試飲はコップ2杯までOKという。でも私は1杯でやめました、夕食の時に少し飲んだ方がおいしいと思うので。そんなことで今日の予定を終えてホテルに戻りました。